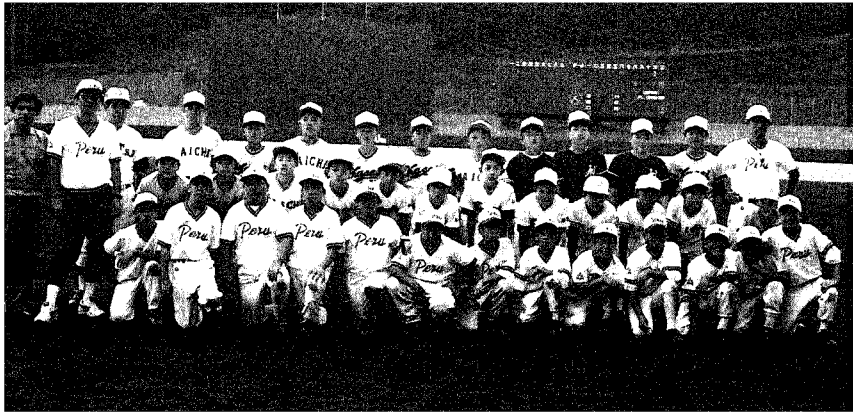


# 野球チーム来市

## 野球を通じて交流



川崎さんは、大学の先輩を介して知り合った佐藤道輔さんの紹介で、本卒業と同時にペルーに渡りました。佐藤さんは五年前に佐藤道輔野球基金を設立し、ペルーへ野球のための人材派遣や道具の寄付などを積極的に行っています。監督としてペルーに派遣されるのは川崎さんが三人目、現地の野球関係者の家にホームステイしながら毎日子どもたちに野球を教えています。

今回のこの来市は、八月初旬に日本で開催されたIBAリーグの世界大会に川崎さん率いる少年野球チームがペルー代表として参加した際、川崎さんの故郷である都留市に立ち寄り、野球を通じて都留市の子どもたちと交流を図り、親睦を深めたいという彼の強い希望により実現したものです。

IBAリーグ世界大会15チーム中  
**第5位**  
ペルーチーム大健闘



八月四日夕方、IBAリーグ世界大会第五位という素晴らしい結果とともに川崎監督をはじめとする引率者、子どもたち合わせて十七人が都留市に到着。宝のグリーンロッジにて歓迎式が開催されました。その後、都留市の子どもたち、関係者を含め和気あいあいとパーベキュー。早速、親睦を深めました。



五日は都留周辺の観光をし、六日には今回の訪問のメインイベントともいえる国際親善野球試合が行われました。午前十時第一試合開始。真っ赤なユニフォームのペルーチームと白を基調とするユニフォームの都留市チーム。まさに記念すべき親善試合にふさわしく、楽山球場に紅白の花が咲き乱れました。結果は、第一、二試合ともペルーチームの勝利となりましたが、選抜チームだったため同じチームとしてプレーするのは初めてだったという都留市の子どもたちも本当によくがんばっていました。



ペルーナショナルチーム

VS

都留市選抜チーム

